

【 福島町商工会青年部創立五十周年記念誌寄稿文 】



大きく飛躍することを期待

溝部 幸基

「福島町商工会青年部創立 50 周年」おめでとうございます。

感謝と敬意の気持ちを込めて心からお祝いを申し上げます。

商工会青年部の創設に事務局として関り、先輩部員のご指導をはじめ、多くの皆様のご理解とご協力をいただき、商工会青年部活動の実践を通して、社会人として育てていただいた者として感慨深いものがあります。

西部四町・渡島管内各商工会青年部との野球を通しての活発な交流、法界寺参道で苦心した歩行者天国(夜店)への初めての挑戦、大型スーパー進出への対抗策として、青年部メンバーが中心となって結実した「スタンプサービス事業」の展開、今では、想像できないほどの賑わいだった館古通り・本町大通りでの「七夕まつり(歩行者天国)」、少年相撲大会・珠算大会等々、商工会の中核として参画・実践してきた事業が懐かしく思い出されます。

挑戦の壁は厳しく、批判的な抵抗も多くありましたが、商工会青年部の団結・連携の力は強く、幾多の困難を乗り越えられたものと思っております。

口角泡を飛ばし、時の経つのも忘れて、福島の将来を熱く語り合ったことも思い出されますが、現状への連動を反省すると、効果の評価は厳しいものがありますが、無我夢中の青年期であったと思えます。

青函トンネル工事の最盛期から、完成までの時期と重なる時代の変遷は、結果として、過疎少子高齢化に歯止めが利かない状況がさらに厳しく続いておりますが、現商工会青年部の皆さんの時代を読み取る感性・創造力には、隔世の感を覚えます。

無限の可能性を秘めた皆さんが、保守的にならず、失敗を恐れず果敢に立ち向かう気概を堅持し、不断の活動を通して、協働の絆を強め、大きく飛躍することを期待いたします。